

卒業生の皆様

拝啓

ご無沙汰していますが、コロナ禍の折、お変わりなくお過ごしでしょうか。

皆様が新型コロナに打ち勝ち、コロナ不況を克服できるようにとの願いを込めて、この度 2021 年 11 月に、新著『新型コロナとコロナ不況の克服——危機に打ち勝つ総合政策』（花伝社）を公刊致しました。一般書店だけでなく、Amazon でも取り扱っております。

2019 年 12 月中国武漢市で発生した新型コロナウイルスは、瞬く間に世界中に大流行し、1918 年のスペイン風邪以来 100 年に 1 度のパンデミックの危機を招いております。自然感染しても 84% の日本国民は無症状か軽症で済んでおりますが、16% の方は中等症か重症で入院されます。2021 年には感染者の平均致死率は世界で約 2%、日本では約 1% と半分でしたが、2022 年現在では、感染者の致死率は世界では 1.02%、日本では 0.32% と 3 分の 1 に減っております。感染率も重症化率も致死率も世界平均より日本では比較的になくなっております。何故でしょうか？ ノーベル医学・生理学賞の山中伸弥教授はその要因を「ファクター X」と呼んでおります。その要因を究明することは、本書の目的の一つでもあります。医学的研究によって、免疫力を高めるビタミン D の摂取量とコロナウイルスを不活化するお茶のカテキンの摂取量が、日本人は非常に多いことが指摘されています。

1 日当たり最大感染者数は、第 1 波 720 人、第 2 波 1600 人、第 3 波 8000 人、第 4 波 7000 人、第 5 波 2 万 6000 人、第 6 波 10 万人と激増の一途を辿ってきました。現在流行のオミクロン株は、感染力はデルタ株の約 4 倍であり、致死率は約 2 分の 1 ですので、死亡者数は実は約 2 倍に増えています。今後は感染力が強く致死率が低い変異株が襲来する恐れがあり、「ポスト・コロナ」ではなく「ウィズ・コロナ」の対応が必要となるでしょう。

2020 年には戦後最悪の -10.2% のマイナス成長とコロナ不況に陥り、8 兆 7 千億円の名目 GDP が失われました。お店も会社も多くが苦境に追い込まれ、倒産が多発しました。皆様のご心配は察するに余りあります。

そこで新型コロナ感染をしても無症状か軽症で済ませるにはどういう医療対策をするべきか、コロナ不況を克服して経済を安定成長に戻すためにはどういう危機管理政策や経済政策を行うべきか、本書では総合政策学の観点から適切と思われる解決策を提案致します。

しかしそれらが必ずしも「最適」であるとは限りませんので、皆様にはご自身の観点から、生活を直撃するこうした諸問題についてより良い解決策を考え

て頂く機会を提供できれば、それが本書の目的でございます。そこで、本書での諸提案を叩き台として、皆様のお知り合いの方々とより深く議論をされて、より適切な解決策を見いだして頂けますように、本書をご利用頂ければ、幸甚に存じます。また新型コロナやコロナ不況について、質問や相談をしたい方々には、私にご連絡頂ければ、微力ながらお力になりましょう。

尚、ゼミ長などの責任者を務められた方々には、同期生の名簿を作成して、横の連絡網を維持して頂ければ、幸いです。

敬 具

2022年4月 林 直嗣
<http://www.i.hosei.ac.jp/hayashi/>